

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32643

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06380

研究課題名(和文)言語の下位機能の生物学的実現

研究課題名(英文)Biological implementation of sub-faculties for language

研究代表者

岡ノ谷 一夫 (OKANOYA, Kazuo)

帝京大学・先端総合研究機構・教授

研究者番号：30211121

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 260,700,000円

研究成果の概要(和文)：言語の起源と進化について系統発生的に妥当な仮説を立て検証してゆくことが本研究の目的であった。鳥類、齧歯類、霊長類を対象に、生態観察から脳機能計測まで多様な手法によりこれに迫った。結果、以下の新たな仮説に至った。複数個体の内部状態の同調はコミュニケーションの効率を上げ集団の結束を高める。個体の脳内で解かれる「結び付け問題」を複数の脳間で解くことに類似する。社会的に結びついた脳では、注意の共有が起こりフレーム問題を解きやすくなる。その一環として階層構造の多義性を解消できるようになる。このため複雑化した信号の組み合わせが多様な意味を担うことができるようになった。これが言語の萌芽となったと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語はヒト特有の形質だが、言語を可能にする階層性と意図共有は動物にも存在する。本研究はこの仮説のもと、鳥類、齧歯類、霊長類およびヒトを対象とする研究者が糾合し、行動から脳に至る比較研究を推進した。結果、動物におけるこれらの現象を行動学的に示すと共に、その脳内機構について様々な知見を得た。これらは100件以上の原著論文、160件以上の学会発表、15件以上の主催シンポジウムとして結実した。博士研究員のうち3名が研究職に就き、研究代表が国際機関の客員となるなど、本研究の成果は学術的に高く評価されている。さらに、約20件のアウトリーチ活動、3件の一般向け書籍により本研究の成果は社会的認知を得た。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to establish and verify a phylogenetically plausible hypothesis regarding the origin and evolution of language. We approached this through various methods, ranging from ecological observations to brain function measurements, focusing on birds, rodents, and primates. As a result, we arrived at the following new hypothesis: synchronization of internal states among multiple individuals enhances communication efficiency and strengthens group cohesion. This process is similar to solving the "binding problem" across multiple brains. In "socially connected" brains, shared attention occurs, facilitating the resolution of frame problems. As a result, the ambiguity of hierarchical structures can be resolved, allowing for the combination of complex signals to convey diverse meanings. This is believed to be the emergence of language.

研究分野：生物心理学

キーワード：階層性 意図共有 前適応 言語 コミュニケーション 霊長類 齧歯類 鳥類

1. 研究開始当初の背景

(1) 仮説

言語はヒトのみが有する特異な思考・コミュニケーション手段である。言語は、膨大な語彙、組み合わせによる意味の無限性、時空を超えた表現など、ヒト以外の動物のコミュニケーション手段とは根本的に異なる性質を持っている。言語の「共創的」、すなわち、複数人による相互作用を通じた創造的な意味創出を可能にしているのはこれらの特徴である。言語の起源を知る上でヒト以外の動物との比較研究は何の意味もないとする研究者も一部にはいる。しかし、言語も進化によって生じた形質の一つである以上、動物コミュニケーションとヒト言語、発話との比較研究は不可欠である。これを可能にするため、人間言語は、動物の一部が持っている形質の組み合わせで発生したという仮説を立てた。

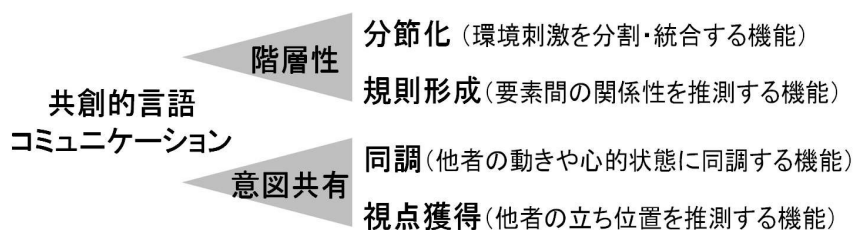
(2) 言語の萌芽

鳥のさえずり(歌)やサル・類人猿の発声の中に言語の萌芽を見いだそうとする研究は、1970年代より行われるようになった。鳥の発声自体には求愛の意味しかないが、その学習や音列産出の神経メカニズムはヒトの言語獲得と多くの類似点があることがわかっている。さらに、一部の霊長類の発声には、組み合わせによる新たな意味生成の事例もあるとする研究者もいる。また、近年になってラットやマウスでも多様な要素を多様な時系列で発声することがわかってきた。代表者である岡ノ谷は、鳥類の一種ジュウシマツの歌が有限状態文法で記述されることを1990年代に発見し、その後この現象について岡ノ谷を含む多くの研究者が歌文法の脳機構・生態学的意義など、さまざまな形で研究を進展させてきた。岡ノ谷はこの業績によって言語起源研究の国際的研究者のひとりとして認識されており、海外学会のプレナリー講演も多数行っている。

2. 研究の目的

(1) 構成概念の操作的定義

私たちは言語を階層性と意図共有の2つの認知機能の融合のもとに成り立つものとした。しかし、これらは構成概念である。本計画研究では、操作的



定義が可能なレベルまでこれらを分割し、実験にのせる。階層性は、分節化(その逆の操作としての凝節化(チャンキング)も含む)と規則形成とに分割できる。意図共有は、同調と視点獲得に分割できる。同調とは、他者と時間的に相関する動作を起こすことであり、視点獲得とは他者の視点(立場)からの眺め(状況)を推測することである。これら4つの下位機能(上図)について、齧歯類・鳥類・ヒト以外の霊長類・ヒト、の4つの動物群を対象とした研究を行った。それぞれの機能について、行動・神経回路・遺伝子の3つのレベルの分析を適用した。

(2) 具体的な仮説

「言語の下位機能は動物においては脳内で局所的に活動しており機能間の結びつきが弱い、逆に萌芽的な機能が塊をなしておりモジュール性がない。ところがヒトにおいてこれらは階層的なネットワークをなしている。このことで、より高次な情報処理が達成できる」。この仮説について、実験事実を示すことが本計画班の目的であった。

3. 研究の方法

(1) 計測法の確立

行動課題：それぞれの下位機能を計測可能な行動課題を確立した。鳥類(キンカチョウ、ジュウシマツ、ブンチョウ、セキセイインコ)・霊長類(テナガザル、ニホンザル、マーモセット)・齧歯類(ラット)およびヒトを対象に、異なる動物種で同様な操作による実験が可能になるよう、代表者・分担者による議論を進めた。

神経活動・遺伝子発現解析：岡ノ谷の研究室では、すでに鳥類と齧歯類から神経活動を無線で記録する技術を確認していた。和多数の研究室では大規模発現解析、比較ゲノム解析、またエピジェネティクス分析の技術を確認していた。FoxP2やCadherinなど回路形成に関連する遺伝子の発現時期・部位を同定しその遺伝子の発現制御領域をゲノムDNA上で探索し、転写因子結合領域の違いや、DNAメチル化・ヒストン修飾の差異を動物種間で比較し、遺伝子と神経活動とを対応づける研究プログラムを形成した。下位機能どうしのネットワーク性もこれらの手法で解明できた。

脳機能イメージング：上記4つの下位機能についてどのような手法による脳機能イメージン

グ（機能的MRI、多チャンネル脳波計、経頭蓋磁気刺激等）が最適であるのかを検討した。

野外研究拠点の確立：系列的発声行動を示すテナガザルを用いて言語の下位機能を探る行動実験を進めるため、野外研究拠点をタイに確立した。

（2）階層性

野外・研究室内で録音された鳥類と霊長類の系列発声から規則性・文法性を抽出する研究を進めた（岡ノ谷 G・香田 G、C01 班との連携）。並行して、主に鳥類を対象に、系列発声の生成に関与する神経ネットワークをカルシウムイメージングにより同定し、系列発声の学習に関与する脳内のエビジェネティクスを検出した（岡ノ谷 G・和多 G）。ヒトを対象とした研究では、描画と文処理における階層性（幕内 G）を発達の観点から（B03 班との連携）および脳損傷例との比較（都立駒込病院 ST 科）から、階層性の脳機構を探った。さらに、サル（香田 G と連携）やチンパンジー（B02 班と連携）における描画能力について計測し、その進化を考察した。

鳥類・齧歯類・霊長類について人工文法音列を利用した認知課題を実施した（岡ノ谷 G・香田 G）。チョムスキー階層に限定せず、内心・外心構造の知覚について検討した（A01 班との連携）。主に鳥類を対象に、音列パターンの学習発達前後の歌神経核における特異的なエビジェネティクス変化を受ける遺伝子群を特定した（和多 G・岡ノ谷 G）。ヒトを対象とした研究として fMRI で音楽の階層構造構築を担う領域の同定を行った（幕内 G・岡ノ谷 G・A01 との連携）。音楽構造の階層性については独仏の研究者との連携も計画した。

人工文法音列の知覚の種差を、ヒト・ヒト以外の霊長類・鳥類において比較した（香田 G・岡ノ谷 G・幕内 G）。主に鳥類を対象に、遺伝子編集技術を利用して、細胞タイプ特異的な遺伝子発現改変実験法を確立し、階層性の脳構造を解明した（和多 G・岡ノ谷 G）。また、音列以外の階層性のある動きについてヒトを対象に fMRI による研究を進めた（A01 班との連携）。

（3）意図共有

鳥類と霊長類を対象に、発声タイミングの同期について実験的に検証した（香田 G・関 G）。鳥類と齧歯類において行動生成の同期性を計測した（岡ノ谷 G・関 G）。ラットの共同課題や救助行動に関連する脳波計測と、コミュニケーション音声時の脳波計測を比較し情動伝染、同調、社会性にまたがる広い範囲の意図共有の共通機構を探った（岡ノ谷 G・関 G）。

鳥類・齧歯類を対象に、オペラント条件づけにより他個体と順序を交替しながら行う課題を訓練し、その個体間協調の中から個体間の運動タイミングにリズムが創発するかを検討した（関 G・岡ノ谷 G）。また、身体運動による場合と発声による場合でこれを比較し、発声を用いたコミュニケーションの優位性を議論した。ヒトにおいても対応する課題で脳波計測を行った（関 G・幕内 G）。

鳥類・齧歯類・ヒト以外の霊長類を対象に、意図共有を必要とする社会的文脈における神経活動を単一細胞レベルで記録した。記録部位として、これまでヒト fMRI 実験でメタ認知に関与する部位として検出していた前頭前野背側部と内側部、楔前部、帯状皮質などを検討した（全 G）。

4. 研究成果

（1）階層性

ジュウシマツのさえずり学習におけるチャンキングの手がかりとしてシラブル間時間が重要であることを見いだした。また、ジュウシマツがさえずり行動に対応した運動前核における神経細胞活動を実時間に計測する方法を開発し、さえずりの時間構造を脳内の空間構造として検出することができた。齧歯類を対象とした研究では、迷路課題においてラットが自己の行動を内省すると考えられる行動を検出できた。（岡ノ谷 G）

こうした階層構造が作られる仕組みを知るため、鳥類において発声学習臨界期中に自発的に生成される発声練習を人為的に阻害し、歌構造発達、発声学習臨界期における学習可塑性、脳内遺伝子発現動態、神経細胞形態変化を調べた。また、毎年歌を再構成するカナリアを用い、聴覚入力消失状態での歌構造発達を精査し、聴覚に依らない生得的な歌構造の規則形成能力を検出した。（和多 G・岡ノ谷 G）

霊長類を対象とした研究では、タイに調査拠点を設置しおよそ 50 頭の類人猿歌の大規模収集のための環境整備を C01（鈴木麗璽）と共同して進めた。京大霊長研では録音サーバーを設置し自動録音収集を実施した。得られた録音から深層学習などの手法を利用して、統計的に妥当性の高い歌音素の分節化と分類作業ができる基盤を、博士研究員とともに進めた。これらの手法は、他の動物の系列発声でも応用可能であるため、班内連携としてジュウシマツの歌音素の分類評価も実施した。これまでに、動物歌を有限状態文法によって評価した研究は存在したが、文脈自由文法といった正規文法以上の文法規則による動物歌の評価はなかった。大規模録音した類人猿歌を利用して、歌の音遷移状態について、有限状態文法と文脈自由文法による遷移規則の評価を世界で初めて実施した。その結果、文脈自由文法による記述の有用性が、類人猿歌でも確認された。（香田 G・岡ノ谷 G）

言語（日本語の文）と数学（自然数の加減乗除計算）で相同な右枝分かれ構造と中央埋め込み構造を持つものの処理中の脳活動を fMRI で計測し比較した。双方のモダリティにおいて中央埋め込み構造は階層構造構築の負荷が高いため、ブローカ野の活動亢進が見られた。これは言語と数学に共通して階層構造構築をブローカ野が担っていることを示すものと解釈できる。さら

に、描画に階層構造があることを、22の複雑図形（顔、車などの物品）を25人の健常成人に模写させ、描き順をクラスター分析し、全ての図形の描き順に階層構造があることを示した。完成画には階層構造は見いだせなくとも、描き上げる過程には階層構造があることを示唆する結果である。言語・音楽に続き描画にも階層構造があることを示したことになる。（幕内G）

階層性の進化的基盤について多方面から研究を進めた。サピエンスにおいて自己「家畜化」が発声可塑性を進めてきた可能性について、ヒトと同様に発声学習を行う鳥類を対象にした研究を根拠として、ストレスの緩和によりオキシトシンとグルタミン酸の脳内発現が増加したことが要因である可能性を指摘した（岡ノ谷G A01 海外協力 Boeckx）。鳥類はヒトと同様に感覚学習と感覚運動学習を経てさえずりを学習するが、感覚学習時に大脳皮質から大脳基底核に投射する神経細胞を除去してしまうことで学習が阻害されることを示した（和多G・岡ノ谷G）。階層性が扱いやすくなるような変化は中枢のみならず末梢にもみられる。霊長類の発声器官の構造が、進化の過程でヒトのみで単純化され、発話音に最適化されていることを発見した（香田G）。

（2）意図共有

ブンチョウの単音節トリルの速度が、親和情動と威嚇情動に対応して範疇的に区分できることを発見した。親和状況では遅く、威嚇状況では早いのである。また、ラットの快情動では50kHz・変調あり・持続時間の短い発声が、不快情動では22kHz・変調なし・持続時間の長い発声が生ずる。ラットにとって知覚上重要な手がかりは音の高さ（周波数に対応する）であることがわかった。（岡ノ谷G）

訓練されたセキセイインコは規則性のある時系列パターンに同調して運動できるが、ここでは往復運動を訓練したトリに、その運動とは独立にリズムカルな聴覚刺激を提示し、その刺激に対する自発的な同調運動が生じるかを検討した。ヒト被験者の多くは自発的同調を示したが、トリについては一部の個体の運動が刺激のタイミングに影響を受けるのみであった。（関G）

B01 公募班員（川合伸行）と共同し、ニホンザルとマーモセットの第三者評価の比較実験の結果、マーモセットだけが非協力的に振る舞う個体を回避する傾向を確認した。また、B02（井原）と協力者らと共同し、タイに生息するベニガオザルで確認できた雌資源を巡る雄間連合について数理モデルを構築した。これらの結果から、協力的行動が成立する進化的条件や他者判断に与える影響、社会構造との対応関係についての考察を進めた。（香田G）

意図共有の進化的基盤についても数種の比較による研究が進められた。ラットがレバー押し行動を他個体と同期して行い、他個体が行動を自発できなくなると、代わりにレバー押しを行う現象（岡ノ谷G PD 勝）オカメインコがヒトの音楽が急に停止するとその続きを歌い出すこと（関）は、どちらも共創的コミュニケーションにおいて他者の行動が表象されていることを示唆する結果である。階層性と意図共有に関わる脳機能は聴覚発声系に限定されているわけではない。盲人において手書き文字の想起に画像的な記憶が活性化されることの発見は、ヒトにおける言語の本質的な多感覚性を示している（幕内G・B03 小林）。

（3）階層性と意図共有にまたがる研究成果

メタ認知は、自己の認知への認知という点で階層性を持つが、同時に階層の異なる自己との意図共有という側面もある。ラットの場所課題を利用した訓練により、ラットがメタ認知様行動を示すまでに必要な条件を絞り込むことができた。ラットを対象に開発したメタ認知テスト課題をヒト用に拡張し、fMRIを用いた脳機能イメージングを行った。結果、前頭前野背内側部と前頭前野腹内側部の結合強度とメタ認知方略をとるかどうかの意思決定に関連することがわかった。これらの部位は楔前部、後部帯状回とも結合を持つので、メタ認知に自己の客体化という側面があるという仮説と矛盾しない結果である。（岡ノ谷GとB01 公募櫻井Gの連携）

（4）研究成果から生まれた新たな仮説

言語の起源と進化について系統発生的に妥当な仮説を立て検証してゆくことが本研究の目的であった。鳥類、齧歯類、霊長類を対象に、生態観察から脳機能計測まで多様な手法によりこれに迫った。結果、以下の新たな仮説に至った。複数個体の内部状態の同調はコミュニケーションの効率を上げ集団の結束を高める。個体の脳内で解かれる「結び付け問題」を複数の脳間で解くことに類似する。社会的に結びついた脳では、注意の共有が起こりフレーム問題を解きやすくなる。その一環として階層構造の多義性を解消できるようになる。このため複雑化した信号の組み合わせが多様な意味を担うことができるようになった。これが言語の萌芽となったと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計107件（うち査読付論文 106件 / うち国際共著 44件 / うちオープンアクセス 78件）

1. 著者名 Kishimoto Reiki, Seki Yoshimasa	4. 巻 198
2. 論文標題 Response timing of budgerigars in a turn-taking task under operant conditioning	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 104638 ~ 104638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2022.104638	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 関義正	4. 巻 65
2. 論文標題 オウム・インコの発声行動と社会性における家禽化の影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 360 ~ 374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Morita Takashi, Ito Tsuyoshi, Koda Hiroki, Wakamori Hikaru, Nishimura Takeshi	4. 巻 178
2. 論文標題 Analyzing and visualizing morphological features using machine learning techniques and non big data: A case study of macaque mandibles	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 American Journal of Biological Anthropology	6. 最初と最後の頁 44 ~ 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ajpa.24469	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Nishimura Takeshi, Tokuda Isao T., Miyachi Shigehiro, Dunn Jacob C., Herbst Christian T., Ishimura Kazuyoshi, Kaneko Akihisa, Kinoshita Yuki, Koda Hiroki, Saers Jaap P. P., Imai Hirohiko, Matsuda Tetsuya, Larsen Ole Naesbye, Urgens Uwe, Hirabayashi Hideki, Kojima Shozo, Fitch W. Tecumseh	4. 巻 377
2. 論文標題 Evolutionary loss of complexity in human vocal anatomy as an adaptation for speech	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Science	6. 最初と最後の頁 760 ~ 763
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/science.abm1574	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyoda Aru, Maruhashi Tamaki, Malaivijitnond Suchinda, Matsudaira Kazunari, Arai Zin, Matsuda Ikki, Koda Hiroki	4. 巻 64
2. 論文標題 Macaque progressions: passing order during single-file movements reflects the social structure of a wild stump-tailed macaque group	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 351 ~ 359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-023-01055-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Seki Yoshimasa	4. 巻 16
2. 論文標題 Cockatiels sing human music in synchrony with a playback of the melody	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0256613
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0256613	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita Takashi, Koda Hiroki, Okanoya Kazuo, Tachibana Ryosuke O.	4. 巻 17
2. 論文標題 Measuring context dependency in birdsong using artificial neural networks	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS Computational Biology	6. 最初と最後の頁 e1009707
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pcbi.1009707	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita Takashi, Toyoda Aru, Aisu Seitaro, Kaneko Akihisa, Suda-Hashimoto Naoko, Adachi Ikuma, Matsuda Ikki, Koda Hiroki	4. 巻 66
2. 論文標題 Effects of short-term isolation on social animals' behavior: An experimental case study of Japanese macaque	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ecological Informatics	6. 最初と最後の頁 101435 ~ 101435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecoinf.2021.101435	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asogwa Norman Chinweike, Toji Noriyuki, He Ziwei, Shao Chengru, Shibata Yukino, Tatsumoto Shoji, Ishikawa Hiroe, Go Yasuhiro, Wada Kazuhiro	4. 巻 530
2. 論文標題 Nicotinic acetylcholine receptors in a songbird brain	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Comparative Neurology	6. 最初と最後の頁 1966 ~ 1991
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cne.25314	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hayase Shin, Shao Chengru, Kobayashi Masahiko, Mori Chihiro, Liu Wan-chun, Wada Kazuhiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Seasonal regulation of singing-driven gene expression associated with song plasticity in the canary, an open-ended vocal learner	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecular Brain	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13041-021-00869-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 James Logan S., Mori Chihiro, Wada Kazuhiro, Sakata Jon T.	4. 巻 31
2. 論文標題 Phylogeny and mechanisms of shared hierarchical patterns in birdsong	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Biology	6. 最初と最後の頁 2796 ~ 2808.e9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cub.2021.04.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujii Tomoko G., Ikebuchi Maki, Okanoya Kazuo	4. 巻 16
2. 論文標題 Sex differences in the development and expression of a preference for familiar vocal signals in songbirds	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0243811
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0243811	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Yoichi, Sinun Waidi, Okanoya Kazuo	4. 巻 24
2. 論文標題 Increase in social interactions of wild Northern Gray gibbons (<i>Hylobates funereus</i>) during the mast fruiting period in the Danum Valley Conservation Area, Sabah, Malaysia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 acta ethologica	6. 最初と最後の頁 153 ~ 163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10211-021-00370-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsu Noriko, Yuki Shoko, Okanoya Kazuo	4. 巻 24
2. 論文標題 Production of regular rhythm induced by external stimuli in rats	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Animal Cognition	6. 最初と最後の頁 1133 ~ 1141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10071-021-01505-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 O'Rourke Thomas, Martins Pedro Tiago, Asano Rie, Tachibana Ryosuke O., Okanoya Kazuo, Boeckx Cedric	4. 巻 25
2. 論文標題 Capturing the Effects of Domestication on Vocal Learning Complexity	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Trends in Cognitive Sciences	6. 最初と最後の頁 462 ~ 474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tics.2021.03.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Kenta, Ikebuchi Maki, Kagawa Hiroko, Koike Taku, Okanoya Kazuo	4. 巻 193
2. 論文標題 Effects of domestication on neophobia: A comparison between the domesticated Bengalese finch (<i>Lonchura striata</i> var. <i>domestica</i>) and its wild ancestor, the white-rumped munia (<i>Lonchura striata</i>)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 104502 ~ 104502
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2021.104502	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Kenta, Okanoya Kazuo	4. 巻 193
2. 論文標題 Domestication effects on aggressiveness: Comparison of biting motivation and bite force between wild and domesticated finches	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 104503 ~ 104503
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2021.104503	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tobari Yasuko, Theofanopoulou Constantina, Mori Chihiro, Sato Yoshimi, Marutani Momoka, Fujioka Sayaka, Konno Norifumi, Suzuki Kenta, Furutani Akari, Hakataya Shiomi, Yao Cheng Te, Yang En Yun, Tsai Chia Ren, Tang Pin Chi, Chen Chih Feng, Boeckx Cedric, Jarvis Erich D., Okanoya Kazuo	4. 巻 21
2. 論文標題 Oxytocin variation and brain region specific gene expression in a domesticated avian species	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Genes, Brain and Behavior	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gbb.12780	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakai Tomoya, Rachman Laura, Arias Sarah Pablo, Okanoya Kazuo, Aucouturier Jean-Julien	4. 巻 18
2. 論文標題 Algorithmic voice transformations reveal the phonological basis of language-familiarity effects in cross-cultural emotion judgments	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0285028
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0285028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iizuka Takafumi, Mori Chihiro, Okanoya Kazuo	4. 巻 192
2. 論文標題 Song-related brain auditory activity in Bengalese finches as examined by immediate early gene expressions: Comparison of arousal states and the correlational analyses between brain regions	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neuroscience Research	6. 最初と最後の頁 56 ~ 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neures.2023.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Umemoto Sachio, Yanagihara Shin, Okanoya Kazuo	4. 巻 181
2. 論文標題 Durations of preparatory motor activity in the avian basal ganglia for songs and calls in a species of songbirds	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuroscience Research	6. 最初と最後の頁 66 ~ 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neures.2022.03.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chen Wei, Okanoya Kazuo	4. 巻 152
2. 論文標題 Investigating the individual difference in distance calls of Bengalese finches using acoustic analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 A277 ~ A277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0016260	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujii Tomoko G., Coulter Austin, Lawley Koedi S., Prather Jonathan F., Okanoya Kazuo	4. 巻 13
2. 論文標題 Song Preference in Female and Juvenile Songbirds: Proximate and Ultimate Questions	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Physiology	6. 最初と最後の頁 876205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphys.2022.876205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujii Tomoko G., Okanoya Kazuo	4. 巻 17
2. 論文標題 Auditory and sexual preferences for a father 's song can co-emerge in female Bengalese finches	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0254302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0254302	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Furutani Akari, Okanoya Kazuo	4. 巻 21
2. 論文標題 Acoustic Parameters Related to Behavioral Discrimination of Emotional Vocalizations in Java Sparrows	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ornithological Science	6. 最初と最後の頁 177 ~ 187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2326/osj.21.177	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katsu Noriko, Okanoya Kazuo	4. 巻 194
2. 論文標題 Stimulus modality affects the accuracy of rhythm production in rats	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 104560
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2021.104560	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kondoh Sotaro, Okanoya Kazuo	4. 巻 2
2. 論文標題 Performance in a task improves when subjects experience respect, rather than admiration, for those teaching them	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Discover Psychology	6. 最初と最後の頁 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s44202-022-00051-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mori Chihiro, Okanoya Kazuo	4. 巻 13
2. 論文標題 Mismatch Responses Evoked by Sound Pattern Violation in the Songbird Forebrain Suggest Common Auditory Processing With Human	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Physiology	6. 最初と最後の頁 822098
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphys.2022.822098	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Yuko, Uematsu Akiko, Okanoya Kazuo, Koike Shinsuke	4. 巻 43
2. 論文標題 The effect of acquisition duration on cerebral blood flow based resting state functional connectivity	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Human Brain Mapping	6. 最初と最後の頁 3184 ~ 3194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hbm.25843	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakatani Hironori, Nakamura Yuko, Okanoya Kazuo	4. 巻 -
2. 論文標題 Respective Involvement of the Right Cerebellar Crus I and II in Syntactic and Semantic Processing for Comprehension of Language	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Cerebellum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12311-022-01451-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ozawa Sachiyo, Nakatani Hironori, Miyauchi Carlos Makoto, Hiraki Kazuo, Okanoya Kazuo	4. 巻 182
2. 論文標題 Synergistic effects of disgust and anger on amygdala activation while recalling memories of interpersonal stress: An fMRI study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Psychophysiology	6. 最初と最後の頁 39 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijpsycho.2022.09.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana Ryosuke O., Xu Mingdi, Hashimoto Ryu-ichiro, Homae Fumitaka, Okanoya Kazuo	4. 巻 12
2. 論文標題 Spontaneous variability predicts compensative motor response in vocal pitch control	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 17740
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-22453-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhu Yinghan, Nakatani Hironori, Yassin Walid, Maikusa Norihide, Okada Naohiro, Kunimatsu Akira, Abe Osamu, Kuwabara Hitoshi, Yamasue Hidenori, Kasai Kiyoto, Okanoya Kazuo, Koike Shinsuke	4. 巻 48
2. 論文標題 Application of a Machine Learning Algorithm for Structural Brain Images in Chronic Schizophrenia to Earlier Clinical Stages of Psychosis and Autism Spectrum Disorder: A Multiprotocol Imaging Dataset Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Schizophrenia Bulletin	6. 最初と最後の頁 563 ~ 574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/schbul/sbac030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takahasi Miki, Okanoya Kazuo, Mazuka Reiko	4. 巻 6
2. 論文標題 How vocal temporal parameters develop: a comparative study between humans and songbirds, two distantly related vocal learners	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Language Evolution	6. 最初と最後の頁 26 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jole/lzaa008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Caspani Giorgia, Fujii Tomoko G., Mizuhara Tomoko, Gilman R. Tucker, Okanoya Kazuo	4. 巻 19
2. 論文標題 Biased Learning of Sexual Signals by Female Bengalese Finches	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ornithological Science	6. 最初と最後の頁 3 ~ 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2326/osj.19.3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Yoichi, Sinun Waidi, Yosida Shigeto, Okanoya Kazuo	4. 巻 23
2. 論文標題 Note orders suggest phrase-inserting structure in male Mueller 's gibbon songs: a case study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 acta ethologica	6. 最初と最後の頁 89 ~ 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10211-020-00341-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kagawa Hiroko, Kato Yoko, Suzuki Kenta, Kato Masaki, Okanoya Kazuo	4. 巻 395
2. 論文標題 Variation in auditory neural activation in response to strain-specific songs in wild and domesticated female Bengalese finches	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Behavioural Brain Research	6. 最初と最後の頁 112840 ~ 112840
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbr.2020.112840	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mizuhara Tomoko, Okanoya Kazuo	4. 巻 174
2. 論文標題 Do songbirds hear songs syllable by syllable?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 104089 ~ 104089
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2020.104089	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakai Tomoya, Okanoya Kazuo	4. 巻 124
2. 論文標題 Cortical collateralization induced by language and arithmetic in non-right-handers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cortex	6. 最初と最後の頁 154 ~ 166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cortex.2019.11.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakatani Hironori, Nonaka Yulri, Muto Sera, Asano Michiko, Fujimura Tomomi, Nakai Tomoya, Okanoya Kazuo	4. 巻 14
2. 論文標題 Trait Respect Is Linked to Reduced Gray Matter Volume in the Anterior Temporal Lobe	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 344 ~ 344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2020.00344	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ojima Shiro, Okanoya Kazuo	4. 巻 14
2. 論文標題 Children's Learning of a Semantics-Free Artificial Grammar with Center Embedding	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biolinguistics	6. 最初と最後の頁 21 ~ 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana Ryosuke O., Kanno Kouta, Okabe Shota, Kobayashi Kohta I., Okanoya Kazuo	4. 巻 15
2. 論文標題 USVSEG: A robust method for segmentation of ultrasonic vocalizations in rodents	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0228907
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0228907	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Xu Mingdi, Tachibana Ryosuke O., Okanoya Kazuo, Hagiwara Hiroko, Hashimoto Ryu-ichiro, Homae Fumitaka	4. 巻 11
2. 論文標題 Unconscious and Distinctive Control of Vocal Pitch and Timbre During Altered Auditory Feedback	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1224 ~ 1224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.01224	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Osmanski Michael S., Seki Yoshimasa, Dooling Robert J.	4. 巻 49
2. 論文標題 Constraints on vocal production learning in budgerigars (<i>Melopsittacus undulates</i>)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Learning & behavior	6. 最初と最後の頁 150 ~ 158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3758/s13420-021-00465-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomyta Kenta, Seki Yoshimasa	4. 巻 739
2. 論文標題 Effects of motor style on timing control and EEG waveforms in self-paced and synchronization tapping tasks	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuroscience Letters	6. 最初と最後の頁 135410 ~ 135410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2020.135410	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関義正	4. 巻 9
2. 論文標題 オウムの仲間による新たな発声の獲得と創出	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 97 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mizuochi-Endo Tomomi, Itou Kazuyuki, Makuuchi Michiru, Kato Baku, Ikeda Kazuhisa, Nakamura Kimihiro	4. 巻 4
2. 論文標題 Graphomotor memory in Exner 's area enhances word learning in the blind	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-021-01971-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwabuchi Toshiki, Makuuchi Michiru	4. 巻 53
2. 論文標題 When a sentence loses semantics: Selective involvement of a left anterior temporal subregion in semantic processing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 929 ~ 942
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ejn.15022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井弘、大関洋平、松本敦、伊藤愛音、幕内充	4. 巻 120
2. 論文標題 脳磁図で探る言語の予測処理の神経基盤 ~ 日本語数量表現からの知見 ~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 信学技報	6. 最初と最後の頁 10~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita Takashi, Toyoda Aru, Aisu Seitaro, Kaneko Akihisa, Suda Hashimoto Naoko, Adachi Ikuma, Matsuda Ikki, Koda Hiroki, O'Hara Robert B.	4. 巻 12
2. 論文標題 Nonparametric analysis of inter individual relations using an attention based neural network	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Methods in Ecology and Evolution	6. 最初と最後の頁 1425~1440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/2041-210X.13613	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koda Hiroki, Arai Zin, Matsuda Ikki	4. 巻 15
2. 論文標題 Agent-based simulation for reconstructing social structure by observing collective movements with special reference to single-file movement	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0243173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0243173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda Ikki, Stark Danica J., Saldivar Diana A. Ramirez, Tuuga Augustine, Nathan Senthilvel K. S. S., Goossens Benoit, van Schaik Carel P., Koda Hiroki	4. 巻 3
2. 論文標題 Large male proboscis monkeys have larger noses but smaller canines	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 522
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-01245-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morita Takashi, Koda Hiroki	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring TTS Without T Using Biologically/Psychologically Motivated Neural Network Modules	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of Interspeech	6. 最初と最後の頁 4856 ~ 4860
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21437/Interspeech.2020-3127	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toyoda Aru, Maruhashi Tamaki, Malaivijitnond Suchinda, Koda Hiroki	4. 巻 61
2. 論文標題 Dominance status and copulatory vocalizations among male stump-tailed macaques in Thailand	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 685 ~ 694
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-020-00820-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 香田啓貴	4. 巻 9
2. 論文標題 サルの発声からヒトの発話へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 87 ~ 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 James Logan S., Davies Ronald, Mori Chihiro, Wada Kazuhiro, Sakata Jon T.	4. 巻 80
2. 論文標題 Manipulations of sensory experiences during development reveal mechanisms underlying vocal learning biases in zebra finches	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Developmental Neurobiology	6. 最初と最後の頁 132 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dneu.22754	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iwamoto Masashi, Shibata Yukino, Kawasaki Junna, Kojima Shohei, Li Yung-Tsung, Iwami Shingo, Muramatsu Masamichi, Wu Hui-Lin, Wada Kazuhiro, Tomonaga Keizo, Watashi Koichi, Horie Masayuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Identification of novel avian and mammalian deltaviruses provides new insights into deltavirus evolution	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Virus Evolution	6. 最初と最後の頁 veab003
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ve/veab003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sanchez-Valpuesta Miguel, Suzuki Yumeno, Shibata Yukino, Toji Noriyuki, Ji Yu, Afrin Nasiba, Asogwa Chinweike Norman, Kojima Ippei, Mizuguchi Daisuke, Kojima Satoshi, Okanoya Kazuo, Okado Haruo, Kobayashi Kenta, Wada Kazuhiro	4. 巻 116
2. 論文標題 Corticobasal ganglia projecting neurons are required for juvenile vocal learning but not for adult vocal plasticity in songbirds	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 22833 ~ 22843
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1913575116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Niwa F., Kawai M., Kanazawa H., Okanoya K., Myowa M.	4. 巻 13
2. 論文標題 The development of the hypothalamus-pituitary-adrenal axis during infancy may be affected by antenatal glucocorticoid therapy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Neonatal-Perinatal Medicine	6. 最初と最後の頁 55 ~ 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/NPM-180040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Yoichi, Sinun Waidi, Okanoya Kazuo	4. 巻 20
2. 論文標題 Copulation calls in wild Mueller 's gibbons (Hylobates muelleri)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Interaction Studies	6. 最初と最後の頁 362 ~ 374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/is.16018.ino	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Koumura Takuya, Okanoya Kazuo	4. 巻 29
2. 論文標題 Distributed representation of discrete sequential vocalization in the Bengalese finch (<i>Lonchura striata</i> var. <i>domestica</i>)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bioacoustics	6. 最初と最後の頁 356 ~ 373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09524622.2019.1607558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tramacere Antonella, Wada Kazuhiro, Okanoya Kazuo, Iriki Atsushi, Ferrari Pier F.	4. 巻 409
2. 論文標題 Auditory-Motor Matching in Vocal Recognition and Imitative Learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuroscience	6. 最初と最後の頁 222 ~ 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroscience.2019.01.056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kutsukake Nobuyuki, Inada Masayuki, Sakamoto Shinsuke H., Okanoya Kazuo	4. 巻 37
2. 論文標題 Behavioural interference among eusocial naked mole rats during work	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Ethology	6. 最初と最後の頁 101 ~ 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10164-018-0581-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okanoya Kazuo	4. 巻 -
2. 論文標題 Cosmolinguistics: Necessary Components for the Emergence of a Language-Like Communication System in a Habitable Planet	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Astrobiology	6. 最初と最後の頁 153 ~ 166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-3639-3_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saito Yumi, Tachibana Ryosuke O., Okanoya Kazuo	4. 巻 9
2. 論文標題 Acoustical cues for perception of emotional vocalizations in rats	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-46907-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 James Logan S., Sun Herie, Wada Kazuhiro, Sakata Jon T.	4. 巻 10
2. 論文標題 Statistical learning for vocal sequence acquisition in a songbird	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-58983-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang Hongdi, Sawai Azusa, Toji Noriyuki, Sugioka Rintaro, Shibata Yukino, Suzuki Yuika, Ji Yu, Hayase Shin, Akama Satoru, Sese Jun, Wada Kazuhiro	4. 巻 17
2. 論文標題 Transcriptional regulatory divergence underpinning species-specific learned vocalization in songbirds	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS Biology	6. 最初と最後の頁 e3000476
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pbio.3000476	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwabuchi Toshiki, Nakajima Yasoichi, Makuuchi Michiru	4. 巻 132
2. 論文標題 Neural architecture of human language: Hierarchical structure building is independent from working memory	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychologia	6. 最初と最後の頁 107137 ~ 107137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuropsychologia.2019.107137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryu Youngjae, Maekawa Takahiro, Yoshino Daisuke, Sakitani Naoyoshi, Takashima Atsushi, Inoue Takenobu, Suzurikawa Jun, Toyohara Jun, Tago Tetsuro, Makuuchi Michiru, ...Sawada Yasuhiro	4. 巻 23
2. 論文標題 Mechanical Regulation Underlies Effects of Exercise on Serotonin-Induced Signaling in the Prefrontal Cortex Neurons	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iScience	6. 最初と最後の頁 100874 ~ 100874
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2020.100874	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita Takashi, Toyoda Aru, Aisu Seitaro, Kaneko Akihisa, Suda-Hashimoto Naoko, Matsuda Ikki, Koda Hiroki	4. 巻 56
2. 論文標題 Animals exhibit consistent individual differences in their movement: A case study on location trajectories of Japanese macaques	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ecological Informatics	6. 最初と最後の頁 101057 ~ 101057
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecoinf.2020.101057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita T., Koda H.	4. 巻 7
2. 論文標題 Difficulties in analysing animal song under formal language theory framework: comparison with metric-based model evaluation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 192069 ~ 192069
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.192069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita T., Koda H.	4. 巻 6
2. 論文標題 Superregular grammars do not provide additional explanatory power but allow for a compact analysis of animal song	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 190139 ~ 190139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.190139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawai Nobuyuki, Nakagami Akiko, Yasue Miyuki, Koda Hiroki, Ichinohe Noritaka	4. 巻 133
2. 論文標題 Common marmosets (<i>Callithrix jacchus</i>) evaluate third-party social interactions of human actors but Japanese monkeys (<i>Macaca fuscata</i>) do not.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Comparative Psychology	6. 最初と最後の頁 488 ~ 495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/com0000182	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seki Yoshimasa	4. 巻 69
2. 論文標題 Comparative approaches for cognitive studies exploring the origin of synchronization of movements to musical rhythms	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Animal Psychology	6. 最初と最後の頁 101 ~ 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2502/janip.69.1.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tricola Gianna M., Simons Mirre J. P., Atema Els, Boughton Raoul K., Brown J. L., Dearborn Donald C., Divoky G., Eimes John A., Huntington Charles E., Kitaysky Alexander S., Juola Frans A., Lank David B., Litwa Hannah P., Mulder Ellis G. A., Nisbet Ian C. T., Okanoya Kazuo, ...Hausmann Mark F.	4. 巻 373
2. 論文標題 The rate of telomere loss is related to maximum lifespan in birds	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences	6. 最初と最後の頁 20160445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rstb.2016.0445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakai Tomoya, Okanoya Kazuo	4. 巻 8
2. 論文標題 Neural Evidence of Cross-domain Structural Interaction between Language and Arithmetic	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 12873
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-31279-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Yui K., Okanoya Kazuo	4. 巻 5
2. 論文標題 Mice modulate ultrasonic calling bouts according to sociosexual context	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 180378 ~ 180378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.180378	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okanoya Kazuo, Yosida Shigeto, Barone Catherine M., Applegate Daniel T., Brittan-Powell Elizabeth F., Dooling Robert J., Park Thomas J.	4. 巻 204
2. 論文標題 Auditory-vocal coupling in the naked mole-rat, a mammal with poor auditory thresholds	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Comparative Physiology A	6. 最初と最後の頁 905 ~ 914
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00359-018-1287-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Furutani Akari, Mori Chihiro, Okanoya Kazuo	4. 巻 157
2. 論文標題 Trill-calls in Java sparrows: Repetition rate determines the category of acoustically similar calls in different behavioral contexts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 68 ~ 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2018.08.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeshima Hiroaki, Hosoda Chihiro, Okanoya Kazuo, Nakai Tomoya	4. 巻 29
2. 論文標題 Reduced γ -aminobutyric acid in the superior temporal gyrus is associated with absolute pitch	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 NeuroReport	6. 最初と最後の頁 1487 ~ 1491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/WNR.0000000000001137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hessler Neal A., Okanoya Kazuo	4. 巻 349
2. 論文標題 Physiological identification of cortico-striatal projection neurons for song control in Bengalese finches	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Behavioural Brain Research	6. 最初と最後の頁 37 ~ 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbr.2018.04.044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hayase Shin, Wang Hongdi, Ohgushi Eri, Kobayashi Masahiko, Mori Chihiro, Horita Haruhito, Mineta Katsuhiko, Liu Wan-chun, Wada Kazuhiro	4. 巻 16
2. 論文標題 Vocal practice regulates singing activity-dependent genes underlying age-independent vocal learning in songbirds	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS Biology	6. 最初と最後の頁 e2006537
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pbio.2006537	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Mori Chihiro, Liu Wan-chun, Wada Kazuhiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Recurrent development of song idiosyncrasy without auditory inputs in the canary, an open-ended vocal learner	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 8732
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-27046-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hayase Shin, Wada Kazuhiro	4. 巻 48
2. 論文標題 Singing activity driven Arc expression associated with vocal acoustic plasticity in juvenile songbird	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1728 ~ 1742
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ejn.14057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asogwa Norman C., Mori Chihiro, Snchez-Valpuesta Miguel, Hayase Shin, Wada Kazuhiro	4. 巻 526
2. 論文標題 Inter- and intra-specific differences in muscarinic acetylcholine receptor expression in the neural pathways for vocal learning in songbirds	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Comparative Neurology	6. 最初と最後の頁 2856 ~ 2869
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cne.24532	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Seki Yoshimasa, Osmanski Michael S., Dooling Robert J.	4. 巻 5
2. 論文標題 Failure of operant control of vocal learning in budgerigars	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Animal Behavior and Cognition	6. 最初と最後の頁 154 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.26451/abc.05.01.11.2018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koda Hiroki, Murai Tadahiro, Tuuga Augustine, Goossens Benoit, Nathan Senthilvel K.S.S., Stark Danica J., Ramirez Diana A. R., Sha John C. M., Osman Ismon, Sipangkui Rosa, Seino Satoru, Matsuda Ikki	4. 巻 4
2. 論文標題 Nasalization by Nasalis larvatus : Larger noses audiovisually advertise conspecifics in proboscis monkeys	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Science Advances	6. 最初と最後の頁 eaaq0250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/sciadv.aaq0250	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koda Hiroki, Kunieda Takumi, Nishimura Takeshi	4. 巻 5
2. 論文標題 From hand to mouth: monkeys require greater effort in motor preparation for voluntary control of vocalization than for manual actions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 180879 ~ 180879
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.180879	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Kimihiro, Makuuchi Michiru, Oga Tatsuhide, Mizuochi-Endo Tomomi, Iwabuchi Toshiki, Nakajima Yasoichi, Dehaene Stanislas	4. 巻 47
2. 論文標題 Neural capacity limits during unconscious semantic processing	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 929 ~ 937
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ejn.13890	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Yoichi, Sinun Waidi, Yosida Shigeto, Okanoya Kazuo	4. 巻 18
2. 論文標題 Combinatory rules and chunk structure in male Mueller ' s gibbon songs	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Interaction Studies	6. 最初と最後の頁 1 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/is.18.1.01ino	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kagawa Hiroko, Seki Yoshimasa, Okanoya Kazuo	4. 巻 324
2. 論文標題 Affective valence of neurons in the vicinity of the rat amygdala: Single unit activity in response to a conditioned behavior and vocal sound playback	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Behavioural Brain Research	6. 最初と最後の頁 109 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbr.2017.02.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okanoya Kazuo	4. 巻 21
2. 論文標題 A long and winding road to human speech	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24467/onseikenkyu.21.1_23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okanoya Kazuo	4. 巻 24
2. 論文標題 Sexual communication and domestication may give rise to the signal complexity necessary for the emergence of language: An indication from songbird studies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychonomic Bulletin & Review	6. 最初と最後の頁 106 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3758/s13423-016-1165-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Prather Jonathan F., Okanoya Kazuo, Bolhuis Johan J.	4. 巻 81
2. 論文標題 Brains for birds and babies: Neural parallels between birdsong and speech acquisition	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neuroscience & Biobehavioral Reviews	6. 最初と最後の頁 225 ~ 237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neubiorev.2016.12.035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyoda Aru, Maruhashi Tamaki, Malaivijitnond Suchinda, Koda Hiroki	4. 巻 164
2. 論文標題 Speech like orofacial oscillations in stump tailed macaque (Macaca arctoides) facial and vocal signals	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 American Journal of Physical Anthropology	6. 最初と最後の頁 435 ~ 439
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ajpa.23276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Koda Hiroki	4. 巻 21
2. 論文標題 Search for Primate Origins of Phonological Uniqueness in Human Languages	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24467/onseikenkyu.21.1_16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Shinji, Hayase Shin, Aoki Naoya, Takehara Akihiko, Ishigohoka Jun, Matsushima Toshiya, Wada Kazuhiro, Homma Koichi J.	4. 巻 12
2. 論文標題 Sex Differences in Brain Thyroid Hormone Levels during Early Post-Hatching Development in Zebra Finch (<i>Taeniopygia guttata</i>)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0169643
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0169643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Merullo Devin P., Asogwa Chinweike N., Sanchez Valpuesta Miguel, Hayase Shin, Pattnaik Bikash R., Wada Kazuhiro, Ritters Lauren V.	4. 巻 78
2. 論文標題 Neurotensin and neurotensin receptor 1 mRNA expression in song control regions changes during development in male zebra finches	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Developmental Neurobiology	6. 最初と最後の頁 671 ~ 686
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dneu.22589	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計160件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 59件)

1. 発表者名 Seki Yoshimasa
2. 発表標題 "Music" Production by Cockatiels
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関義正
2. 発表標題 トリたちが 音声コミュニケーションと 多様性について教えてくれること
3. 学会等名 (NPO法人)人と動物の共生センター「人と動物の共生大学」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 関義正
2. 発表標題 音楽のメロディに合わせてうたうオカメインコ~トリの声真似から学べること~
3. 学会等名 中日文化センター 1 dayセミナー (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 関義正
2. 発表標題 音楽とはいったい何なのだろう - オカメインコが教えてくれること
3. 学会等名 創企舎ソフィ (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 幕内充
2. 発表標題 喚情的言語の脳基盤
3. 学会等名 第8回坂本記念神経科学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koda, H., Kunieda, T., Morita, T., Oh, J., Nishimura, T. & Fitch, W. T.
2. 発表標題 Motion Analysis of Head Movements During Vocalization in Monkeys: A Comparison of Spontaneous and Evoked Vocalizations
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Morita, T., Tachibana, R. O., Okanoya, K., & Koda, H
2. 発表標題 On the Relation Between Context Dependency and Vocabulary in Human Language and Birdsong
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田子健、岸山健、陳姿因、広瀬友紀、幕内充
2. 発表標題 幼児の描画課題におけるチャンキング傾向の考察
3. 学会等名 電子情報通信学会 思考と言語研究会 (TL)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Iwabuchi Toshiki, Nambu Satoshi, Nakatani Kentaro, Makuuchi Michiru
2. 発表標題 Brain mechanisms for the processing of Japanese syntactic particles wa, ga and no
3. 学会等名 International Symposium on Issues in Japanese Psycholinguistics from Comparative Perspectives (対照言語学の観点から見た日本語の心理言語学的な諸問題に関する国際シンポジウム) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoe Taiga, Okimura Tsukasa, Iwabuchi Toshiki, Kiyama Sachiko, Makuuchi Michiru
2. 発表標題 Pragmatic atypicality of individuals with autism spectrum disorder: Preliminary data of sentence-final particles in Japanese
3. 学会等名 International Symposium on Issues in Japanese Psycholinguistics from Comparative Perspectives (対照言語学の観点から見た日本語の心理言語学的な諸問題に関する国際シンポジウム) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Makuuch Michiru
2. 発表標題 Brain mechanisms of semantic/pragmatic processing of sentences
3. 学会等名 マックスプランク認知神経科学研究所 Leipzig Lectures on Language Combinatorics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Makuuch Michiru
2. 発表標題 Hierarchical structure building in language, mathematics and drawing, namely, symbol sequence
3. 学会等名 東京大学ニューロインテリジェンス国際機構セミナー (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Makuuch Michiru
2. 発表標題 Hierarchical structure building in language
3. 学会等名 NCCU-GIL TALK. 政治大學語言學研究 (台湾) NCCU Graduate Institute of Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seki Yoshimasa
2. 発表標題 Parrots sing human music in unison
3. 学会等名 第8回生物音響学会 (Society for Bioacoustics) 年次研究発表会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomyta Kenta, Kishimoto Reiki, Seki Yoshimasa
2. 発表標題 Discrimination of audio-visual compound stimuli in budgerigars
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kishimoto Reiki, Seki Yoshimasa
2. 発表標題 Budgerigars (<i>Melopsittacus undulatus</i>) learned to take turns under operant conditioning
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 豊田有、丸橋珠樹、マライヴィジットノン・スチング、荒井迅、香田啓貴、松田一希
2. 発表標題 自動撮影カメラを用いた野生ベニガオザルの隊列順序の映像記録からの社会構造復元の試み
3. 学会等名 第37回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田ゆき野、和多和宏
2. 発表標題 Heterosis in vocal learning traits in F1 hybrid songbirds
3. 学会等名 日本神経科学大会第44回大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田路矩之、柴田ゆき野、辰本荘司、石川裕恵、郷康広、和多和宏
2. 発表標題 鳴禽類の歌行動進化の神経分子メカニズムNeural molecular mechanisms of song evolution in songbirds
3. 学会等名 日本動物学会第92回大会サテライトシンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shibata Yukino, Toji Noriyuki, Go Yasuhiro, Tatsumoto, Syoji, Ishikawa Hiroe, Wada Kazuhiro
2. 発表標題 Heterosis and individual difference in syllable learning abilities in F1 hybrid songbirds
3. 学会等名 日本比較生理化学会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toji Noriyuki, Shibata Yukino, Tatsumoto Shoji, Ishikawa Hiroe, Go Yasuhiro, Wada Kazuhiro
2. 発表標題 Neural molecular mechanisms of the evolution of species-specific song in songbirds
3. 学会等名 日本比較生理化学会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Domestication and cultural evolution of complex songs in Bengalese finches
3. 学会等名 Cultural Evolution Society 2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kamijo Makiko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Matching-to-sample learning and transfer with patterned visual stimuli in rats
3. 学会等名 20th Biennial Meeting of the International Society for Comparative Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chen Wei, Kamijo Makiko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Discrimination of frontally and laterally oriented conspecific faces in Bengalese finches
3. 学会等名 20th Biennial Meeting of the International Society for Comparative Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hakataya Shiomi, Katsu Noriko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Helping-like behavior of laboratory rats is not modulated by social bonds, but rather associated with preceding interactions, age, and sex
3. 学会等名 20th Biennial Meeting of the International Society for Comparative Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤聡太郎、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 拍子の知覚検出：多義的な音列刺激を用いた検討
3. 学会等名 第22回音楽と脳研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤聡太郎、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 音楽的拍子の検出と逸脱：多義的音刺激による研究
3. 学会等名 日本音響学会聴覚研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 勝野吏子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 共同サイモン課題を用いたラットにおける動作表象の共有の検討
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fujii Tomoko G, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Possible role of the amygdala-like brain nucleus in expression of song preference in female Bengalese finches
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Katsu Noriko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Effect of familiarity on behavioral coordination in joint task by rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toya Genta、Goto Kazuhiro、Okanoya Kazuo、Yuki Shoko
2. 発表標題 Evolutionary simulation of metacognition in rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤聡太郎、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 音楽的拍子の知覚と逸脱:多義的な音刺激を用いた探究
3. 学会等名 第3回共調的社会脳研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 勝野史子、博多屋汐美、外谷弦太、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 新奇物への探索傾向は見知らぬ他者との社会関係構築を予測するか? :ラットにおける探索的分析
3. 学会等名 日本人間行動進化学会第14回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 博多屋汐美、上條槇子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ラットの社会認知における同居・非同居カテゴリーの検討
3. 学会等名 日本動物行動学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 外谷弦太、水本武志、岡ノ谷一夫、橘亮輔
2. 発表標題 ジュウシマツの社会相互作用の定量的分析
3. 学会等名 日本動物行動学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上條禎子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ラットの同一見本合わせ課題における学習と転移 - 同時提示手続きと継時的手続きを用いた検討 -
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kamijo Makiko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Delayed matching-to-sample task with visual stimuli by rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chen Wei, Kamijo Makiko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Do Bengalese finches discriminate conspecific faces in various angles categorically?
3. 学会等名 日本動物心理学会第81回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chen Wei、Kamijo Makiko、Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Gaze recognition in bengalese finches
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen Wei、Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Vocal individual recognition in Bengalese finches: acoustic analysis and discrimination test using distance calls
3. 学会等名 日本動物心理学会第82回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen Wei、Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Investigating the individual difference in distance calls of Bengalese finches using acoustic analysis
3. 学会等名 183rd Meeting of the Acoustical Society of America (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hakataya Shiomi、Katsu Noriko、Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Factors influencing the occurrence of prosocial behavior in laboratory rats
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hakataya Shiomi、Katsu Noriko、Okanoya Kazuo、Toya Genta
2. 発表標題 Measuring personality traits in laboratory rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第82回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Iizuka Takafumi、Mori Chihiro、Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Song-related auditory-motor neurons in Bengalese finch's basal ganglia: analyses using temporal difference of gene expression
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue Yoichi、Sinun Waidi、Yosida Shigeto、Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Male Northern Gray Gibbon Songs Have a Phrase-Inserting Structure
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Katsu Noriko、Hakataya Shiomi、Okanoya Kazuo、Toya Genta
2. 発表標題 The effect of personality traits on the social relationship formation in female laboratory rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第82回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Katsu Noriko, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Behavioral Evidence for Representations of the Other's Action During a Joint Task in Rats
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kondoh Sotaro, Okanoya Kazuo, Tachibana Ryosuke
2. 発表標題 Quantifying subjective intensity of musical beats
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koshiishi Riseru, Okanoya Kazuo, Tachibana Ryosuke
2. 発表標題 Investigation of octave similarity in pitch perception in rats: In search of common auditory properties between humans and animals
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nitta Jun, Kondoh Sotaro, Okanoya Kazuo, Tachibana Ryosuke
2. 発表標題 Integration and Segregation of Auditory Streams During Rhythm Perception
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Song complexity and auditory perception in Bengalese finches
3. 学会等名 International Ornithological Congress 2022 (28th IOC) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 The other-origin theory of mind
3. 学会等名 Workshop on Life Mind Continuity (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Suzuki Yuka, Yanagihara Shin, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Audio-vocal mirror neuron in the songbird basal ganglia
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tachibana Ryosuke, Ikebuchi Maki, Okanoya Kazuo, Yanagihara Shin
2. 発表標題 Vocal Operant Conditioning by Social Contingency in Songbirds
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toya G, Goto K, Okanoya K, Yuki S
2. 発表標題 The emergence of internal state-based behavioral optimization in evolutionary simulation
3. 学会等名 日本動物心理学会第82回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Umemoto Sachio, Yanagihara Shin, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Initiating learned vocalization is preceded by long ramping in neural activity in basal ganglia in a species of songbird
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Utagawa Emi, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Emotion Regulation in Language Evolution
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wada Reo, Kamijo Makiko, Katsu Noriko, Hakataya Shiomi, Koda Hiroki, Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Do rats prefer to share food with other individuals or monopolize it?
3. 学会等名 日本動物心理学会第82回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuki S, Toya G, Goto K, Okanoya K
2. 発表標題 Exploration of evolutionary scenarios of self-referential ability by a computational model
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇田川笑未、岡ノ谷一夫、橘亮輔
2. 発表標題 西洋音楽による喚起感情と脳活動相関の日本人データセット作成
3. 学会等名 2022年12月度聴覚研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 外谷弦太、水本武志、岡ノ谷一夫、橘亮輔
2. 発表標題 ジュウシマツの社会相互作用の定量的分析
3. 学会等名 2022年6月度聴覚研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤聡太郎、岡ノ谷一夫、橘亮輔
2. 発表標題 拍の主観的な強さ：心理物理学的手法による定量の試み
3. 学会等名 日本音楽知覚認知学会春季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 仁田純、近藤聡太郎、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 系列群化がリズム知覚に及ぼす影響
3. 学会等名 電子情報通信学会（音声言語情報処理研究会・音声研究会・音楽情報科学研究会「音楽シンポジウム2022」）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 輿石りせる、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ラットのピッチ知覚におけるオクターブ類似性の検討
3. 学会等名 日本音楽知覚認知学会春季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 輿石りせる、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 オクターブ類似性の生起条件:ラットを対象とした検証
3. 学会等名 電子情報通信学会（音声言語情報処理研究会・音声研究会・音楽情報科学研究会「音楽シンポジウム2022」）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木祐佳、柳原真、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 鳴禽類の脳基底核には聴覚発声ニューロンが存在する
3. 学会等名 電子情報通信学会（音声言語情報処理研究会・音声研究会・音楽情報科学研究会「音楽シンポジウム2022」）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木祐佳、柳原真、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ジュウシマツの脳基底核における聴覚発声ニューロン
3. 学会等名 第45回日本神経科学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木祐佳、柳原真、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ジュウシマツの脳基底核には聴覚発声ミラーニューロンが存在する
3. 学会等名 第46回鳥類内分泌研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡ノ谷一夫
2. 発表標題 コミュニケーション行動から探る動物の心
3. 学会等名 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 オープンハウス2022 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 What Can We Learn from Bird Songs and Rat Tweets?
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Evolution of vocal complexity: A peak-shift and epigenetics account
3. 学会等名 The 13th International Conference on the Evolution of Language (EvoLang13) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上條禎子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 Do rats recognize identical relation of visual stimuli?
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井朋子、池淵万季、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 Sexual imprinting on father's song in female Bengalese finches
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橘亮輔、池淵万季、岡ノ谷一夫、柳原真
2. 発表標題 Operant conditioning of songbird's vocalization with social reward
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外谷弦太、結城笙子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 A computational modeling of metacognition in rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 勝野吏子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 Examination of action co-representation during joint task in rats
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Wei Chen、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 How Bengalese finches discriminate conspecific faces in various angles
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Wei Chen、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 Gaze recognition of conspecies in Bengalese finches by various face angles
3. 学会等名 CiShuB公開講義「人間研究のための基礎知識」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上陽一、勝野史子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 テナガザルの「道具使用、自発的な食物分配、相手に気づかれないように目的を達成する行動」とその背景
3. 学会等名 第36 回霊長類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井朋子、池淵万季、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ジュウシマツのメスにおける父親歌への性的刷り込み
3. 学会等名 第44回鳥類内分泌研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸張靖子、森千紘、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ジュウシマツの野生原種と家畜種間でのメソトシン神経系の比較
3. 学会等名 第44回鳥類内分泌研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Auditory, cognitive, and brain processing of emotional vocalizations in rodents
3. 学会等名 UCONN Neuroscience seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Okanoya Kazuo
2. 発表標題 Domestication effects on behavior in Bengalese finches
3. 学会等名 National Symposium on Avian Biology in Conjunction with 3rd Meeting of Association of Avian Biologists in India (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本励季、関義正
2. 発表標題 A rhythmic turn-taking task in budgerigars (<i>Melopsittacus undulatus</i>): birds changed response strategy depending on the partner of the task
3. 学会等名 日本動物心理学会第80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 富田健太、関義正
2. 発表標題 運動様式の違いがリズム同調・生成課題にもたらす効果
3. 学会等名 第2回共調的社会脳研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 富田健太、関義正
2. 発表標題 行動実験で検出不可ながらEEGでは検出可能な運動様式の違いにより生じる認知処理の差
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岸本 励季、関義正
2. 発表標題 交互つつき課題においてセキセイインコは相手によって運動タイミングを変える
3. 学会等名 日本学会議・行動生物学分科会主催シンポジウム「動物たちの意図共有」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ma Qiong, Kiyama Sachiko, Makuuch Michiru
2. 発表標題 Neural basis for the processing of pain psychomimes: A functional magnetic resonance imaging study
3. 学会等名 CNS 2021 Virtual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mizuochi-Endo Tomomi, Ito Kazuyuki, Makuuchi Michiru, Kato Baku, Ikeda Kazuhisa, Nakamura Kimihiro
2. 発表標題 Graphomotor memory in Exner 's area enhances veabal learning in the blind
3. 学会等名 第43回日本神経科学大会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水落 (遠藤) 智美、幕内充
2. 発表標題 話者の口形情報が音声知覚処理ネットワークに与える影響
3. 学会等名 第22回日本ヒト脳機能マッピング学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 酒井弘、大関洋平、松本敦、伊藤愛音、幕内充
2. 発表標題 脳磁図で探る言語の予測処理の神経基盤 ~ 日本語数量表現からの知見 ~
3. 学会等名 電子情報通信学会 IEICE-TL
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋友太、大関洋平、酒井弘、幕内充、大須 理英子
2. 発表標題 LSTMとMEGを用いた脳内言語処理メカニズムの推定
3. 学会等名 第30回日本神経回路学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 酒井弘、大関洋平、松本敦、伊藤愛音、幕内充
2. 発表標題 脳磁気信号を通して探る言語の予測処理の認知神経基盤
3. 学会等名 第6回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 香田啓貴
2. 発表標題 コミュニケーションの 미래のカタチ
3. 学会等名 第10回超異分野学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 香田啓貴、荒井迅、松田一希
2. 発表標題 霊長類の動物の隊列観察をどれぐらいすると社会の階層性を推定できるか？数値実験を通じた考察
3. 学会等名 第36回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shin Yanagihara, Maki Ikebuchi, Chihiro Mori, Ryosuke, O. Tachibana, Kazuo Okanoya
2. 発表標題 Social modulation of auditory activity in a songbird VTA/SNc
3. 学会等名 49th Annual Meeting of Society for Neuroscience (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Umemoto, S., Yanagihara, S., & Okanoya, K.
2. 発表標題 Long-term change in neural activity of basal ganglia prior to vocal behavior in Java sparrows.
3. 学会等名 49th annual meeting of Society for Neuroscience (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mizuhara, T., Tachibana, R. O., Wada, K., & Okanoya, K.
2. 発表標題 Contribution of prosodic cues in song learning by Bengalese finches <i>Lonchura striata</i> var. <i>domestica</i> .
3. 学会等名 The 10th IBRO World Congress of Neuroscience (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Fujii, T., Ikebuchi, M., & Okanoya, K.
2 . 発表標題 Influence of early life experience on vocal responsiveness to social signal in songbirds.
3 . 学会等名 The 10th IBRO World Congress of Neuroscience (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hakataya, S., Saito, Y., Katsu, N., Kamijo, M., Yuki, S., & Okanoya, K.
2 . 発表標題 Discrimination learning USV is affected by the biologically prepared associations between USVs and pleasure/distress.
3 . 学会等名 The 10th IBRO World Congress of Neuroscience (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Umemoto, S., Yanagihara, S., & Okanoya, K.
2 . 発表標題 Preparatory neural activations in basal ganglia related with learned songs and innate calls in Java sparrows.
3 . 学会等名 The 10th IBRO World Congress of Neuroscience (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Shin Yanagihara, Maki Ikebuchi, Chihiro Mori, Ryosuke, O. Tachibana, Kazuo Okanoya
2 . 発表標題 Social context modulates auditory activity in a songbird VTA/SNc
3 . 学会等名 The 10th IBRO World Congress of Neuroscience (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Yanagihara, Maki Ikebuchi, Chihiro Mori, Ryosuke, O. Tachibana, Kazuo Okanoya
2. 発表標題 Role of VTA/SNc neurons in social enhancement of vocal learning in a songbird
3. 学会等名 日本比較生理生化学会第41回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 博多屋汐美、勝野吏子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ラット群の個体間関係と向社会経験との相互作用
3. 学会等名 日本動物行動学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鹿野奈都音、古谷明梨、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 生態学的刺激に対するブンチョウの注意の測定
3. 学会等名 日本動物行動学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯塚崇文、森千紘、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ジュウシマツを用いた覚醒度依存の聴覚応答変化の解析
3. 学会等名 日本動物行動学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hakataya, S., Katsu, N., & Okanoya, K.
2. 発表標題 The interaction between social relationship and prosocial behavior among group-living rats.
3. 学会等名 日本動物心理学会第79回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Yanagihara, Maki Ikebuchi, Chihiro Mori, Ryosuke, O. Tachibana, Kazuo Okanoya
2. 発表標題 Neural mechanisms for social enhancement of vocal learning in a songbird
3. 学会等名 日本動物心理学会第79回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makiko Kamijo & Kazuo Okanoya
2. 発表標題 Identity matching-to-sample performance in rats with visual stimuli on a touch panel display
3. 学会等名 日本動物心理学会第79回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳原真、池淵万季、森千紘、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 Social influence on VTA/SNc auditory activity in a songbird
3. 学会等名 第42回日本神経科学学会・第62回日本神経化学会大会合同大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤聡太郎、橘亮輔、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 多義的な拍子喚起刺激の知覚
3. 学会等名 日本音楽知覚認知学会2019年度春季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 T Mizuochi-Endo and M Makuuchi.
2. 発表標題 Neural processing of degraded speech using speaker 's mouth movement.
3. 学会等名 The 15th International Conference on Auditory-Visual Speech Processing (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水落(遠藤)智美、幕内充
2. 発表標題 話者の口形情報が音声知覚処理ネットワークに与える影響
3. 学会等名 第22回日本ヒト脳機能マッピング学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yao-Ying Lai.
2. 発表標題 Comprehension of underspecified meaning and the impact of individuals' autistic traits.
3. 学会等名 Talk at Meaning in Flux workshop at Yale (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yao-Ying Lai.
2. 発表標題 Comprehension of underspecified iterative meaning in Japanese.
3. 学会等名 Talk at the joint conference of Mental Architecture for Processing and Learning of Language
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yao-Ying Lai, Michiru Makuuchi, Maria Mercedes Pintildeango, Hiromu Sakai.
2. 発表標題 Impact of individuals' autistic traits on real-time sentence meaning processing
3. 学会等名 Meeting on Language and Autism (MoLA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koda, H.
2. 発表標題 Animal songs before emergences of hierarchical structures.
3. 学会等名 Protolang 6 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koda, H.
2. 発表標題 Primate sequential actions before emergences of hierarchical structures.
3. 学会等名 Mini-symposium of Evolving linguistics. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koda, H. and WT Fitch.
2. 発表標題 Kyoto-Vienna collaboration to enhance understanding of the primate origins of speech and language.
3. 学会等名 The 2nd Joint Workshop Kyoto University- University of Vienna. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香田啓貴
2. 発表標題 音源定位技術が切り開くサルの生態と会話における未 解決問題
3. 学会等名 第 55 回 AI チャレンジ研究会特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香田啓貴
2. 発表標題 サルの発声からヒトの発話へ
3. 学会等名 日本歴史言語学会 2019 年大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香田啓貴
2. 発表標題 サルの発声からヒトの発話に至る道筋
3. 学会等名 日本語用論 学会第 22 回大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香田啓貴
2. 発表標題 集団行動伝播と行動形成に及ぼす認知バイアスの役割
3. 学会等名 日本動物行動学会ラウンドテーブル
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yu Ji, Miguel Saacutenchez-Valpuesta & Kazuhiro Wada
2. 発表標題 Regulation of repetitive syllable sequence by the excitatory and inhibitory balance in the basal ganglia song nucleus in songbirds
3. 学会等名 Society for Neuroscience meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和多和宏
2. 発表標題 学習によって獲得される種特異的な発声パターン生成に関わる遺伝子発現制御メカニズム
3. 学会等名 日本生化学会 第92回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seki Y.
2. 発表標題 Imitation of human music in a parrot species.
3. 学会等名 Protolang 6 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関義正
2. 発表標題 オカメインコによる斉唱 - ヒト以外の動物における階層系列を介した意図共有の例 -
3. 学会等名 日本認知科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seki Y.
2. 発表標題 Emergence of sound sequences in vocalizations of cockatiels.
3. 学会等名 第6回生物音響学会年次研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomyta, K & Seki, Y.
2. 発表標題 Differences between motor control for whistle and that for vocalization; a neuro-psychological test in a sound imitation task.
3. 学会等名 第6回生物音響学会年次研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関義正
2. 発表標題 オウムの仲間による新たな発声の獲得と創出.
3. 学会等名 第9回日本歴史言語学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細田千尋、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 防衛的悲観主義が学習行動に及ぼす影響と脳可塑性
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤聡太郎、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 尊敬関連感情と試験成績の関連
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡ノ谷一夫
2. 発表標題 音声と表情が伝えるもの：コミュニケーション信号の進化
3. 学会等名 日本高次脳機能障害学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関義正、富田健太
2. 発表標題 メトロノーム音が自己ペースのタップタイミングに及ぼす影響 セキセイインコとヒトの比較実験
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村剛、ヘルプスト クリスチャン、香田啓貴、國枝匠、鈴木樹理、兼子明久、ガルシア マキシム、徳田功、フィッチ W・テカムセ
2. 発表標題 マカクザルの発声メカニズムに関する実験的研究
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizuhara, T. & Okanoya, K.
2. 発表標題 Does inter-syllable interval affect syllable perception in a songbird?
3. 学会等名 The XXVI International Bioacoustics Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Saito, Y. & Okanoya, K.
2. 発表標題 Positive and negative emotional contagion in rats
3. 学会等名 The XXVI International Bioacoustics Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Okanoya, K.
2. 発表標題 Song complexity and domestication syndrome in Bengalese finches
3. 学会等名 The XXVI International Bioacoustics Congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Furutani, A., Mori, C. & Okanoya, K.
2. 発表標題 Java sparrows modify trill rates under affiliative and agnostic interactions
3. 学会等名 The 4th Annual Meeting of the Society for Bioacoustics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Umemoto, S., Yanagihara, S., & Okanoya, K.
2. 発表標題 Neural correlate of vocal activity in Java sparrows recorded in basal ganglia
3. 学会等名 The 4th Annual Meeting of the Society for Bioacoustics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森千紘、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 自由行動下のブンチョウにおける聴覚ミスマッチ応答
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017 (行動2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水原誠子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 小鳥のさえずりの知覚単位：オペラント条件づけを用いた実験課題の提案
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017 (行動2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤井朋子、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ジュウシマツのディスタンスコール鳴き交わしにおけるタイミングの性差
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017（行動2017）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柳原真、池淵万季、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 鳴禽類の発声学習における中脳ドーパミン神経系の役割
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017（行動2017）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古谷明梨、森千紘、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ブンチョウの行動に伴うトリルについて
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017（行動2017）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田佳子、岡ノ谷一夫、田中章浩
2. 発表標題 ヒトとジュウシマツにおける聴覚的補完現象の比較
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017（行動2017）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梅本祥央、柳原真、岡ノ谷一夫
2. 発表標題 発声学習中におけるブンチョウの脳基底核の神経活動
3. 学会等名 日本動物行動関連学会2017（行動2017）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田佳子、岡ノ谷一夫、田中章浩
2. 発表標題 ヒトとトリにおける聴覚的補完現象の比較検討
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡ノ谷一夫
2. 発表標題 ことばの起源：小鳥から学べること
3. 学会等名 東京大学駒場祭（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡ノ谷一夫
2. 発表標題 音声と表情が伝えるもの：コミュニケーション信号の進化
3. 学会等名 第41回高次脳機能障害学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 香田啓貴, 豊田有, 丸橋珠樹, MALAIVIJITNOND Suchinda
2. 発表標題 ベニガオザルの表情に観察される発話相同な周期的運動
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 香田啓貴
2. 発表標題 発話能力の進化史の推定
3. 学会等名 第47回ホミニゼーション研究会「言語の生物学と進化」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshimasa Seki
2. 発表標題 Individual difference and vocal learning of contact-call-like sounds in juvenile cockatiels
3. 学会等名 4th Annual Meeting of the Society for Bioacoustics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 夏目登子, 神谷真由, 林亜海, 伊東采音, 関義正
2. 発表標題 オカメインコヒナ音声の定量的分析による発達と個体差の検討
3. 学会等名 行動2017 (日本動物行動関連学会・研究会 合同大会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 和多和宏
2. 発表標題 鳴禽類ソングバードの種特異的発声パターン生成の神経分子基盤
3. 学会等名 日本進化学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 和多和宏
2. 発表標題 自発的行動に起因する発声学習表現型の個性創発の神経分子基盤
3. 学会等名 日本分子生物学会（2017年度生命科学系学会合同年次大会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 早瀬晋、和多和宏
2. 発表標題 ソングバード発声学習臨界期における練習経験依存的な脳内遺伝子転写制御
3. 学会等名 日本動物学会 北海道支部大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Asogwa Chinweike Norman, Chihiro Mori, Sanchez Miguel-Valpuesta, Shin Hayase and Kazuhiro Wada
2. 発表標題 Species-specificity and Individual differences of muscarinic acetylcholine receptors expression in the song circuits
3. 学会等名 Society for Neuroscience
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hongdi Wang, Azusa Sawai, Shin Hayase, Kazuhiro Wada
2. 発表標題 Interspecific divergence of cis- and trans-regulation for gene expression associated with species-specific learned vocalization
3. 学会等名 Society for Neuroscience
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Azusa Sawai, Kazuhiro Wada
2. 発表標題 Nature via nurture of vocal learning in hybrid songbirds
3. 学会等名 Society for Neuroscience
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 遊佐 典昭、小泉 政利、野村 忠央、増富 和浩	4. 発行年 2023年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 400
3. 書名 言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題	

1. 著者名 岡ノ谷 一夫、藤田 耕司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 326
3. 書名 言語進化学の未来を共創する	

1. 著者名 日本音響学会、市川 薫、長嶋 祐二、岡本 明、加藤 直人、酒向 慎司、滝口 哲也、原 大介、幕内 充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 コロナ社	5. 総ページ数 242
3. 書名 音声コミュニケーションと障がい者	

1. 著者名 日本音響学会((編) 安藤 彰男 (編著)、坂本 眞一、折野 裕一郎、秋山 いわき、佐藤 雅弘、長谷川 英之、及川 靖広、中村 健太郎、荒井 隆行、白石 君男、上田 麻理、寺澤 洋子、岩宮 眞一郎、船場 ひさお、川上 央、佐藤 史明、河原 一彦、須田 宇宙、西村 明、松尾 行雄、加我 君孝、香田 啓貴、関 義正、他7名 (著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 コロナ社	5. 総ページ数 304
3. 書名 音響学の展開	

1. 著者名 井上 陽一、岡ノ谷 一夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 共立出版	5. 総ページ数 168
3. 書名 歌うサル	

1. 著者名 笠井 清登、岡ノ谷 一夫、能智 正博、福田 正人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 人生行動科学としての思春期学	

1. 著者名 岡ノ谷 一夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 144
3. 書名 ハダカデバネズミのひみつ	

1. 著者名 Masataka Nobuo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 345
3. 書名 The Origins of Language Revisited	

1. 著者名 生物音響学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 464
3. 書名 生き物と音の事典	

1. 著者名 今川 恭子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 株式会社音楽之友社	5. 総ページ数 328
3. 書名 わたしたちに音楽がある理由(わけ)	

1. 著者名 岡ノ谷 一夫(編)、岡ノ谷一夫、藤田耕司、小林春美、井原泰雄、橋本敬著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 160
3. 書名 ことばと心	

1. 著者名 嶋田 珠巳、斎藤 兆史、大津 由紀雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 376
3. 書名 言語接触	

1. 著者名 東京大学教養学部	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 東京大学駒場スタイル	

1. 著者名 Micheal L. DentRichard R. FayArthur N. Popper	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer Cham	5. 総ページ数 221
3. 書名 Rodent Bioacoustics	

1. 著者名 岡ノ谷一夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 209
3. 書名 脳に心が読めるか？	

1. 著者名 Shigeno S, Murakami Y & Nomura T 編著, Wada K, Chen C-C & Jarvis ED 担当	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 438
3. 書名 Brain Evolution by Design: From Neural Origin to Cognitive Architecture	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>共創的コミュニケーションのための言語進化学 http://evolinguistics.net/</p> <p>「つながる」ヒトがもたらす禍いと恩恵 『公研』2020年6月号 https://koken-publication.com/archives/561</p> <p>岡ノ谷研究室 https://teikyo.jp/acro/marler/</p> <p>サルの発声から見るヒトの言語の起源 季刊「生命誌102号」 https://www.brh.co.jp/publication/journal/102/rp/research01/#gsc.tab=0</p> <p>生物の音声とコミュニケーション研究室（愛知大学・関研究室） http://psy.aichi-u.ac.jp/yseki/</p> <p>Neurobiology for Vocal learning（北海道大学・和多研究室） https://www.wada-lab.org/</p> <p>認知学習 京都大学霊長類研究所 http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/ninchi/?page_id=9</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	関 義正 (Seki Yoshimasa) (50575123)	愛知大学・文学部・教授 (33901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	幕内 充 (Makuuchi Michiru) (70334232)	国立障害者リハビリテーションセンター(研究所)・研究所 脳機能系障害研究部・研究室長 (82404)	
研究分担者	香田 啓貴 (Koda Hiroki) (70418763)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	和多 和宏 (Wada Kazuhiro) (70451408)	北海道大学・理学研究院・教授 (10101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	太田 邦史 (Ohta Kunihiro)		
研究協力者	宮川 繁 (Miyagawa Shigeru)		
研究協力者	河村 正二 (Kawamura Shouji)		
研究協力者	橘 亮輔 (Tachibana Ryosuke)		

6. 研究組織(つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野村 洋 (Nomura Hiroshi)		
研究協力者	新村 毅 (Shimmura Tsuyoshi)		
研究協力者	森阪 匡通 (Morisaka Tadamichi)		
研究協力者	小林 耕太 (Kobayashi Kota)		
研究協力者	横山 ちひろ (Yokoyama Chihiro)		
研究協力者	正水 芳人 (Masamizu Yoshito)		
研究協力者	Bruner Emiliano (Bruner Emiliano)		
研究協力者	Mithen Steven (Mithen Steven)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	F i s h e r S i m o n (Fisher Simon)		
研究協力者	F i t c h T e c u m s e h (Fitch Tecumseh)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計11件

国際研究集会 Joint Conference on Language Evolution	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Evolution of language from perspectives of hierarchical complexity	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 2nd Joint Workshop Kyoto University-University of Vienna	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Evolinguistics 2019 Intensive Seminar	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Human Brain Mapping	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Psycholinguistics in Iceland - Parsing and Prediction	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Evolinguistics Meets Signed Language	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Japan songbird workshop	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Birdsong learning and innate predispositions	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Fish as model systems for vocal communication and hearing research	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 NeuroBiology seminar for animal communications at Hokkaido University	開催年 2017年～2017年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------